

〈チャレンジしたいこと〉

・実は、高校に通っていた時は菊川が嫌いだった。最近菊川に来たらお店のお客さんがとても魅力的で、素敵な人が住んでる街だと感じている。この良いところを発信したい。

・障がい者と過ごす、みんな個性があって得意なことと違うことに気づく。障がい者は18歳になると支援が切られてしまう。余裕があればどんどん採用していくべき。

・農業には色々な関わり方がある。お茶が衰退しているが、外から来たからこそお茶を残してほしいと感じる。色々な売り方があり、様々な角度でお茶を知ってもらうことが大切。

・地方に行って農業体験をする等学びを得て、発表して帰るといったツアーが流行っている。菊川でもやったら良い。

・畑（将来の収穫量・味等）を見ることができるバイヤーを育てる必要がある。子ども達にバイヤーという仕事があることを伝え、将来の職業選択のひとつにしたい。

〈議会や行政はどんな形で支援していく必要がありますか？〉

・障がい者、高齢者、心の病の方を受け入れる雇用体制を取っているが、障がい者には

専用の指導員が必要で、連携を取らないと難しい。行政がどう動いてくれるかわからないが、受け口を広くして、頼りにされることが一番。

・家族で菊川に移住しようとしても、住むところが見つげにくい。空き家があっても持ち主が不明。行政で事前に調査して空き家を借りられるようになれば、菊川に移住しやすい。

・農家は農産物の売り先があれば安心できる。菊川にも売って欲しい人が多い。市で営業費を農家に補助してくれると安定して作ることができ、品質も安定する。

・生産と営業を分業すれば、それぞれにどれだけ費用が掛かるのかも分かる。そこで行政が営業費の補助をしたり、登録するとバイヤーが売れる仕組みを作ったりして、限定何件という募集を行えば、耕作放棄地も多い菊川に農業をやりたい人が来るはず。

・菊川はカッコイイというより、泥臭い独自の菊川農業の部分にデザインを行って発信すればいい。

・菊川に温泉があれば、農作業の後で入りたい。人も集まってくる。近隣も出ているので菊川も出るのでは。

・菊川市は目立ったところに補助金を出しているイメージ。良くしていくためには、申

請してくるところだけでなく、もっと出向いて本当に必要なところに支援していかないといけない。

ご協力ありがとうございました。

〈取材協力〉

岩堀万智子さん（なな瓦商店デザイナー）

早川 ナナさん（なな瓦商店）

森下真奈美さん（株おがさ）

永田 明美さん（自然農タロの畑）

村田 和美さん（ブローカルデザインスクール株）

福田麻希子さん（地域おこし協力隊）

